



前川 浩子

金沢学院大学文学部文学科
心理学専攻准教授

富山県出身。慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。教育学博士。専門は発達心理学、教育心理学、行動遺伝学。2006年(平成18年)に金沢学院大学に着任し、現在に至る。

学生の主体性を引き出すには

二つの力を有した人材育成

現在、地域社会には様々な課題があり、その課題に対して当事者意識を持ち、そして、解決できる人材が社会の発展には不可欠である。このような人材の育成のためには、課題を発見し、その課題に関して自らの頭で考え、そして、時には他者とチームを組みながら、

多様な考えの中から解決策を見出し、行動することのできる力を大

学教育で身につける必要がある。2016年に学園創立70周年を迎える金沢学院大学・金沢学院短期大学では、自ら考え、行動する主体性、そして、それだけでなく、他者とともに考え、行動する協働性、この二つの力を身につけた人材の育成を目指し、組織的な教育

改革を進めている。その一つとして2014年度から文学部に導入したFuture Skills Project講座(以下、FSP講座)を紹介したい。

FSP講座とは

Future Skills Project研究会は、安西祐一郎氏(日本学術振興会理事・慶應義塾学事顧問)を座長とし、5大学(青山学院大学、上智大学、東京理科大学、明治大学、立教大学)および6企業(アステラス製薬、サントリーホールディングス、資生堂ジャパン、日本オラル、野村證券、ベネッセコーポレーション)が、「次世代を担う人材を産学協同で育成する」ことを目的に2010年に発足した。この研究会では様々な議論が重ねられ、「主体性を備えた人材を育成する」ための講座が開発された。これが、FSP講座である。

この講座の最大の特徴は、1年前期に実施するという点にある。学生は様々な事情を抱えて大学・

短大に入学する。第一志望で入学した学生、不意入学の学生、目的なく入学した学生、これまでの学校生活でうまくいかなかった経験がある学生など、4月のキャンパスは、これからの大学生活への期待感、不満感、不安感といった様々な感情にあふれている。FSP講座は、この入学直後の感情の高まり(高揚感)を利用して、このような時期に課題を解決する経験は、学生に「気づき」をもたらす。

気づきが学びのスイッチ

学生は5〜6名でチームを組み、前半と後半で二つの企業から提示される課題に取り組み(表1)。チームのメンバーは、ほぼ初対面であり、学生は戸惑いながら、企業の社員になるという設定で課題を解決していく。たとえば、2015年前期に本学文学部で実践した講座で、NTTドコモ北陸支社から提示された前半の課題は、次のようなものであった。

「あなたは「新サービス開発担当」の責任者として、中高年層(50代以上)のスマートフォンユ

なぜ学ぶのかを考える

部下として「上司」に解決策を提案する

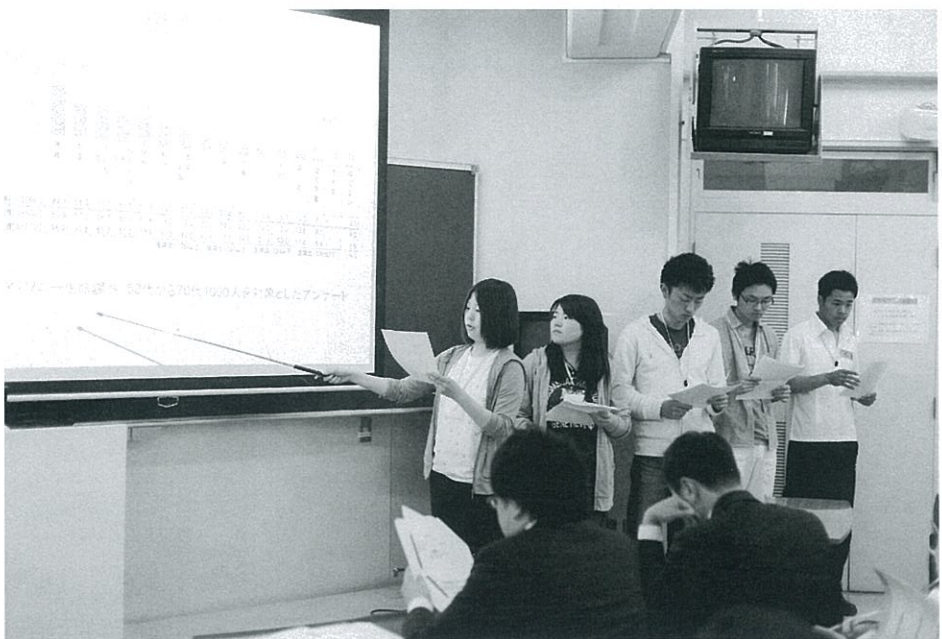


表1 FSP講座の展開(本学では15回で展開)

コマ	企業参加	内容
1		マインドセット・ルール説明
2		課題解決とは? ディスカッション練習
3	★	企業から課題提示
4		チーム活動
5	★	企業への第一次提案
6		チーム活動
7	★	企業への最終提案・評価
8		振り返り・チーム再編
9		スキル紹介
10	★	企業から課題提示
11		チーム活動
12	★	企業への第一次提案
13		チーム活動
14	★	企業への最終提案・評価
15		全体の振り返り・今後の学びの検討

※1企業目：B to C企業、2企業目：B to B企業

1企業目

業時間外にもチームで集まり、解決策を練り、「上司」と位置づけられた企業からの出講者に提案する。しかし、「上司」から

2企業目

様々な「気づき」にあふれている。ある学生のリアクションシートを紹介したい。

「裏づけとは何か。どうすれば成されるのか。分からないことばかりが見つかる。できないことが自分にはたくさんあるのだとひしひしと感じた。でも、できるように努力したいし、このままではいitくない。今回の授業のことをもう一度よく考えたい。」

ここで書かれているような自分に足りないものに入学早期に気づくことは、「なぜ自分は大学・短大で学ぶのか」ということを考え

ザー増加を目的とした魅力的なサービス開発を求められています。サービス内容と販売戦略、想定される効果について検討し、社内の企画会議に方針を提出してください。」

授業時間内に議論や提案の準備が終わるわけではなく、学生は授

るきつかけになる。そして、それが残りの学生生活の学びのスイッチになるのである。

「チーム」であること

失敗を経験することは辛い。それだけでなく、慣れないチーム活動によって感じるストレスも大きい。しかし、学生たちはたくましく半期を走り抜き「難しい課題であっても、チームだからこそ、解決できる」ということに気づき、最後のゴールにたどり着く。この結果に必要なのは、「安全と安心が確保された環境」で学生が「失敗」できることだ。そして、この環境づくりのために必要なのは、教員と職員が信頼し合い、「チーム」となって学生を支えることだと言えよう。FSP講座の実践は、本学における学生の学びの機会(失敗の機会)を担保するために教職員が一つのチームとなる機会をも与えてくれた。

金沢学院大学・金沢学院短期大学は2016年、全ての学部でFSP講座を開講する。「チーム金沢学院」で学生の「失敗経験」を支えていきたい。